

「太陽・日食観察グラスを作る (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

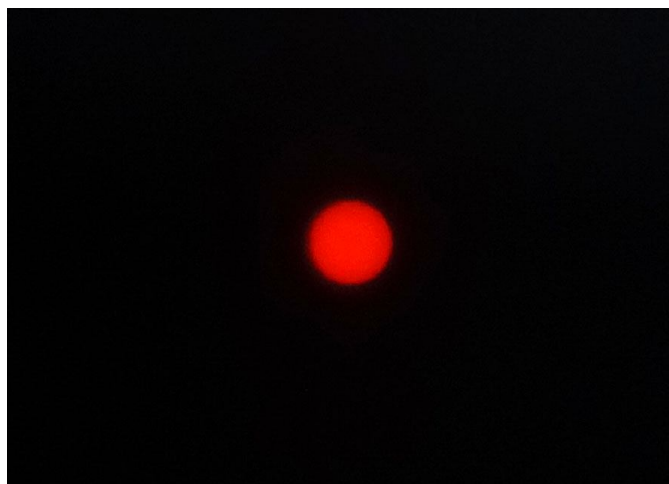
田中 千尋 Chihiro Tanaka



作り方が簡単な「太陽・日食観察グラス」15分ほどで、全員が作り上げることができた。目に直接当てて使うものなので、四隅の角は、丸くトリミングしておいたほうが安全である。左右の「お〜日食」「あ〜日食」のイラストが子どもたちに大人気で、「これ本当にこういう名前なんですか？」と聞くので「天文学の専門用語だよ」と、とぼけておいた。



この日は晴れていたもので、練習の意味も兼ねて、校舎屋上で太陽を見させることにした。その前に、教室でも試してみる。両手でも片手でも使えるが、やわらかい素材なので、写真のように目全体を立体的に覆えることがわかり、安全性が確認できた。この子は蛍光灯の光を見ているのだが、「なんにも見えないよ」と言っていた。理科室常備のガラス製遮光板では、蛍光灯がかすかに見えるので、更に上の性能のようだ。



この遮光シートで太陽を見ると、このようにオレンジ色に見える。日没直前の太陽のようだ。3年生の時に学校の遮光板で観察した時は、緑色に見えた。オレンジ色のほうがより太陽っぽくて、実感が持てたようだ。子どもたちは「わあー丸い!」「赤い!」と、喜んでいて。自分で作った太陽・日食観察グラスで観察するのが、とても嬉しいのだろう。



これは、太陽（光球）の一部を、指先で隠して「疑似部分日食」の実験をしているところだ。「わあー、日食になった!」「先生、部分日食、もう見られたよ」「私なんか皆既日食になった」と大騒ぎ。



1月6日の部分日食の最大食分時（東京では10:06頃）に、このグラスで太陽を見ると、このように見えるはずである。1月6日（日）の午前中は、私は自宅近くの「教育の森公園」（茗荷谷）で観察しようと思っている。「太陽・日食日食観察グラス」もいくつか持参し、観察しに来た人に差し上げる予定だ。